

平成23年12月市議会定例会から

11月30日から10日間の会期で開催された市議会定例会では、工藤市長の「一般行政報告」のほか、12月補正予算の審議などが行われました。

※一般行政報告は、全文を一部要約して掲載しています。

一般行政報告

日本海側拠点港の選定

このたび、国際競争力の強化に向けて重点的に港湾整備を支援する「日本海側拠点港」について、国土交通省の公募の結果が公表され、稚内港が拠点港に選定されました。

選定対象は、日本海側の国際拠点港湾と重要港湾26港で、稚内港は、示された6分野のうち2分野で応募し、「国際フェリー・国際RORO船」分野で高い評価を得て、機能別拠点港に選定されました。

稚内港の地理的優位性や、これまで進めてきたサハリンとの経済・文化交流事業

の実績、サハリンプロジェクトによりロシアの経済成長の取り込みが期待できる点などを評価いただき、北海道全体ひいては日本全体の発展につながることが期待され選ばれたものです。

この選定により、稚内港は、国際フェリー機能の強化に必要な国の支援を受け港湾を活用して対岸諸国との経済交流の拡大を目指す本市にとって、大変喜ばしい決定です。

この内容は、現在進めている「港湾計画」の改訂作業に反映させ、将来の稚内港整備や国際定期フェリーの機能強化を図っていく考えです。

5万隻を達成したのは、北海道内はもちろんのこと、他県も含む函館税関管内の港の中で、初めてという快挙です。

今後も、北海道をはじめ、関係機関と連携し、名実ともに日本海側拠点港として発展するよう、全力で取り組んでいきます。



香港・台湾観光プロモーション事業

去る11月22日から、「稚内・利尻・礼文・サロベツ観光振興協議会」会長として、利尻、利尻富士、礼文、豊富の各町の町長や観光協会、ホテル旅館業の関係者、総勢18名で、香港・台湾を訪問し、観光客誘致のためのプロモーションを開催しました。



上期観光客入り込み状況

本年度の本市の上期入込枚数は、総数34万8,300人で、残念ながら前年を9%下回ったものの、震災直後の激減から徐々に回復傾向を見せ始め、7月、8月は前年同期を上回り、明るい兆しを見ることができました。



東日本大震災の影響などにより、夏の観光への甚大な影響が懸念されることから東京直行便のツアー支援を中心に行いました。

その成果もあり、東京直行便利用のツアーは、昨年の約50%の増、人数にして8,600人余りの増加となり、その経済効果は約2億4千万円と推計しています。

協会会長賞の受賞

このたび本市は、優れた都市計画事業を推進した自治体に贈られる、「都市計画協会会長賞」の表彰を受けました。

今回の受賞は、「日口友アたち」の稚内ロケが決まりたのをはじめ、本市とゆかりの深い南極観測がドラマ化され話題になるなど、本市の観光に好機が訪れると思っています。

北防波堤ドームの周辺は、野外ステージや遊歩道、親水護岸など、市民の皆さんのが利便性を高める整備を進めています。

今後も、「稚内市中心街地活性化基本計画」の基本理念である「マチ」と「みなし」を連携したまちづくりを柱に、事業を進めます。

した。

このたびの観光プロモーションを通じ、両地域とも北海道に対する知識や情報はあるものの、道北圏、その中でも北宗谷圏域に関する情報の不足を感じました。

また、「観光セミナー」では、高い関心を寄せていました。

北海道に対する知識や情報の中でも北宗谷圏域に関する情報の不足を感じました。また、今後の商品化に向けた手応えを感じることができます。

その成果もあり、東京直行便利用のツアーは、昨年の約50%の増、人数にして8,600人余りの増加となり、その経済効果は約2億4千万円と推計しています。

これが大切ですので、皆さんのご協力を願い申し上げます。

まちぐるみでお迎えするところです。